

チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

通信



第38号

2018.7 vol.38



三田地域・芙蓉



11期生CC大学校外授業



2017年度11期生修了式

CONTENTS ■ ごあいさつ

港区長

明治学院大学学長

CCクラブ代表

武井 雅昭

松原 康雄

斎藤 正精

■ 2018年度CCクラブ新体制の紹介

■ 学ぶ喜びと出会いをありがとう!

～11期生から寄せられた声～

■ 運営委員会報告・活動紹介

チャレンジコミュニティ通信は、 地域活動推進の情報を提供します

港区は、2007年4月に地域活動のリーダーを養成することを目的として、明治学院大学との連携により、チャレンジコミュニティ大学を開設しました。この大学は港区在住の60歳を超えた高齢者を対象に夫々がこれまで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて個々の能力を再開発することを目指して創設されました。

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ（略称CCクラブ）が創設されました。この大学で学んだ知識を活用し、地域課題の解決に向け、会員が地域活動を推進することを目的としています。このクラブは地域活動のリーダーを育て、港区のまちづくりや地域ネットワークの構築を進め、併せて各人の資質の向上をはかっていきます。

この目的に沿って、主にクラブ会員を対象に地域活動推進の情報提供や活動状況を紹介するため、チャレンジコミュニティ通信を発行しています。

港区からは、区民参画、協働への推進等に関する情報、また地域社会活性化への貢献に資する団体、機関等への参加、NPOやボランティア団体等への参加、地域防災組織等地域の安全・安心活動への参加等、多岐に亘る情報提供を得ていきます。また会員相互の情報としては各団体等での会員の活躍状況や、クラブ企画の講演会・講習会、施設見学会の開催案内等を紹介していきます。

本年もこの通信は会員皆様にとって役立つ情報を発信し、また皆様からも活発なご意見や情報を頂きながら、より充実した内容を目指していきたく考えています。



チャレンジコミュニティ・クラブ 第11期生の皆さんへ

■港区長 武井 雅昭

チャレンジコミュニティ大学を修了された皆さんが、地域貢献活動に熱意と意欲を抱かれ、第11期生として、チャレンジコミュニティ・クラブに入会されましたことを、心からお祝い申し上げます。



チャレンジコミュニティ・クラブの会員の皆さんは、区民参画による検討組織や各総合支所との地域活性化のための協働事業、ボランティアグループ等の地域福祉活動など、地域社会において多方面でご活躍いただいております。

港区の人口は全ての世代で増加しており、平成29年2月には、昭和38年以来、54年ぶりに25万人を回復しました。

一方で、区民生活は、当時から大きく変わりました。約9割の区民が共同住宅に居住し、なかでも、約700棟ある高層住宅（6階以上かつ50戸以上）において多くの方が暮らしています。核家族化が進み、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯も増加しています。

人々の価値観やライフスタイルも多様化し、地域における人と人とのつながりも大きく変容しています。地域コミュニティの重要な担い手である町会、自治会でも会員数の減少や高齢化が進み、会の活動への参加が低調になるなど、活動の担い手不足が課題となっています。

区民、在勤者、学生、外国人等、多様な人々が共生する中、地域が一体となって防災・防犯・環境美化・交通安全など様々なコミュニティ活動に取り組むためには、コミュニティリーダーとなる人材が必要です。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんには、今後も、地域コミュニティの育成や活性化を推進するリーダーとして、活躍していただくことを期待しています。

区は、区民参画や地域における協働により築いてきた区民との信頼関係や、地域との絆を大切にしながら、地域の課題を地域の皆で解決し、お互いに支え合う、地域の誰もが安全に安心して心豊かに暮らすことができる「港区ならではの地域共生社会」の実現をめざしてまいります。

結びに、チャレンジコミュニティ・クラブの今後益々の発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

地域社会のリーダーが 育まれる場の提供

■明治学院大学学長 **松原 康雄**

チャレンジコミュニティ大学（CC大学）は、港区と本学との連携によって実施され、本年は12期生をお迎えすることができました。1年間の学びを終えますと、修了生としてチャレンジコミュニティ・クラブ（CCクラブ）のメンバーとして新たな活動の場を得ることになります。



1年間、大学キャンパスを主たる会場として、継続した学びを完遂されることを前提にしたCC大学は、都内でも、全国的にもユニークなもので、その学びの内容が地域の諸課題の理解に焦点化されることも大きな特徴であるといつてよいでしょう。加えて、CC大学の特徴として、各期メンバーの結びつきが強いという点もあげることができるかと思えます。少人数のグループ活動や宿泊研修等を通じて、同期生や教員との結びつきが形成されます。

この「繋がり」が修了とともに切れてしまうのは「勿体ない」という意識からCCクラブが創設されたと認識しています。もちろん、同窓会的な集まりという性格もありますが、各期の縦の「繋がり」もできあがって、武井港区長が目指されてきた地域コミュニティの育成や活性化を推進するリーダーの養成という面で機能しています。活動内容も、高齢者支援、趣味・教養を生かした支援活動、地域防災、緑化・環境美化、障害者支援、子どもへの支援など多岐にわたります。

今後、港区が国際都市として益々発展していくためには、インフラの整備も重要ですが、多様な文化を受け入れ、共生する住民の存在と活動が重要です。CC大学での学びやCCクラブでの活動が多文化共生社会の実現に貢献することは、本学の地域社会への貢献実現にも大きな意味を持っています。CCクラブの活動が、地域住民だけではなく、本学学生の参加も実現されていることは、大学として感謝すべきことと思っています。

CC大学12期生の豊かなキャンパスライフ実現と、新たに11期生が加わったCCクラブの多様で充実した活動の進捗を願い、本学もお手伝いしていきたいと思えます。

CCクラブ新体制方針

■CCクラブ代表 **齋藤 正精（6期）**

新年度の運営方針「クラブ活動をさらに活発化させて、CCクラブの継続・発展性を高めていく」は3年前からの基本路線と変わりありません。クラブの運営を引き続き安定させていくことが大切と考えております。活動テーマは運営委員会で行ったグループ討議結果を反映し「クラブ独自の企画で一般向けのイベントを行ない、楽しいサロン活動や研修を充実させる、子供や学生も含む多世代対象の地域活動を行う」です。このテーマに沿って5月に明治学院高等学校の家庭科授業8クラスにおいて、延べ25名の会員がゲストスピーチを行ないました。高齢者の人生経験と現在の活動を語ることにより、生徒たちに何らかのヒントを与えられないかという学校側の企画に協力することができました。人材の宝庫であるクラブの総合力を生かせば今後いろいろなことにチャレンジできそうです。



人生100年時代といわれ、人生の残り半分の時間を有意義に過ごしたいということで「元気が一番、毎日が楽しく健康であれば言うことなし、残り少ない人生なのだから自由気ままに趣味を楽しむのが一番。長年働いたのだから、気力も体力も衰えてきているから、これからは自由に好き勝手にいきたい」というのがシニアのごく一般的な本音かもしれません。ただ人口の世代構成がアンバランスになってきており、働ける人は仕事を続け、余裕ある人はすこしでも社会貢献をやり、要介護の先延ばしをする自助努力が求められています。背景として少子高齢化による財政圧迫などがあり、行政サービスを受容して楽しむばかりでは若者世代がシニアに違和感を抱き嫌老になりかねません。高度成長など比較的好い時代を過ごしてきた我々クラブ会員は、今こそ地域活動を通じて共助社会実現へ微力でもチャレンジすることが大事ではないかと思えます。

無理をしない範囲で、周囲と一緒に、自然体で協力しながら地域活動で自己実現を！

無理をしない範囲で、周囲と一緒に、自然体で協力しながら地域活動で自己実現を！

2018年度CCクラブ新体制の紹介

副代表

丸山 保夫（7期）

チャレンジコミュニティ・クラブのメンバーは600名の規模になりました。これだけの人数になるとそれぞれの方々のバックグラウンドも別々なら、各自の興味を持つ分野、目指すところ、CCクラブ運営部門に対する期待も様々です。



CCクラブ運営部門がすべてのメンバーの要望に応えようとする、役割が広がりすぎ現実的ではありません。かといって、名簿管理をするだけの組織であっても困ります。

運営部門としては、メンバー間のコミュニケーションのお手伝いをしたり、新しい活動の紹介をしたりと、人と人との仲介をすることが主な役割だと思います。色々な情報をお寄せいただければ、それを他の方々にお伝えしますので、どうぞ運営委員または各部会までお知らせください。

副代表

及川 廣子（6期）

11期生を迎えて新年度がスタートしました。

昨年から役員の一員として参加し、感じたことは各部会員の方々の活躍です。総務部会は修了者の名簿等の個人情報管理や運営委員会での資料配布、メール配信作業。会報部会は年3回の会報発行のため、その都度内容の検討から印刷に出すまで何度も打ち合わせ。企画部会は総会、活動報告会等の他に誰でも参加の楽しい企画の検討。地域連携部会は各地域の活動報告や、年4回の地域部会には各総合支所担当の方を交えての意見交換。HP部会は誰でもHPに投稿ができるようにと部会員が勉強会を開いています。



どの部会も和気あいあいに活動しています。

企画部会

野村 知義（8期）

会員のネットワークを通して、

絆を深め楽しく集える場づくり

2018年度企画部会は、経験豊富な11名の部会員で活動を進めます。CCクラブは、第11期生を迎え、会員数が約600名の大規模団体となりました。区内4つの地域では「地域CCクラブ」が自立し主体的に活動を展開しています。しかし、個別に活動している、家に閉じこもっている、介護に専念している等それぞれの事情により、CCクラブからの呼びかけに対して疎遠になりかけている会員の存在も事実です。

会員の皆様に生涯にわたっての「いきがい」、「活躍の場」、「夢や希望を実現する」機会を設定して会員相互の絆が深められる活動を進めます。年間計画については、議案集に掲載し単年度とともに中長期の計画を立案して、多くの会員の皆様に参加していただける企画を実施します。



地域連携部会

吉田 由紀子（2期）

CCクラブと地域をつなぐ活動

地域連携部会では、CCクラブ会員の皆様が参加する活動や地域での様々な活動の情報を集め、HPやCC通信で周知し、情報を共有化することで、活動の輪を広げ地域との連携を進めてまいります。

会員の皆様が取り組んでいる地域活動や福祉活動の実態を把握し、多くの方々に知っていただき、今後のCCクラブの活動に繋げるとともに、地域との連携による活動を一層充実させるために、今回、1～11期生を対象にした「2018年度活動実態調査」を実施することといたしました。

このCC通信38号に同梱されている調査票に記入の上、期限までにご提出くださるようご協力よろしく願いいたします。

今年度中には調査結果をまとめ、皆様への報告、外部への情報発信に向け部員一同努力してまいります。



ホームページ部会 石賀 幹春（9期）

約600名のCCクラブのメンバー、各期、部会及び地域CCクラブ間の情報交換・共有・提供・理解を深め、CCクラブがより発展する為のツールとして、会員全員が頼りにするようなHPにしたいと思います。このためには会員が簡単に投稿出来る仕組みを周知し、実際に投稿してもらうことが必要です。自分で投稿すれば必ず閲覧します。

今年度も昨年度作成した投稿マニュアルをベースに、更に追加・修正して投稿方法の説明会を数多く実施しますのでぜひ参加下さい。又各期グループ単位の活動は大変活発にされています。これらの活動を投稿して日頃の活動実績を記録として残しましょう。必ず後で役に立ちます。同時に、魅力あるHPの開発にも注力したいと考えておりますので、情報提供宜しくお願い致します。



会報部会 瀬能 正実（10期）

今年度から部会長を仰せつかった瀬能です。小学校の時から作文の評点がアヒル（2）だった私がお役にたてるかと心配です。太田さんが副部会長として残られるので二人で協力してより読み易い会報誌となるよう目指していきますので宜しくお願い致します。構成メンバーは総勢10名で、力を合わせて会員の方の繋ぎの橋となる会報作りに務めたいと思います。と同時にCCクラブ役員会、運営委員会、他部会との連携を深めクラブの広報となる様努力致します。



総務部会 石川 啓子（8期）

総務部会の仕事とその仲間たち

CCクラブの部会の中で、一番新しくできた部会が総務部会です。主な仕事は、皆様に運営委員会の情報を正確にお届けすることです。発表原稿を集め、運営委員会が時間内に有意義な会議になるようにします。会議の終了後、議事録を皆様にお届けしています。

クラブのTシャツを作り、総会等々の準備をして、地味な分野でCCクラブを支えています。

部員になり一緒にCCクラブを支えませんか。



学ぶ喜びと出会いをありがとう！

～11期生から寄せられた声～

明治学院大学の講師の方々、スタッフの皆さま、そして港区に対し、心より深く感謝申し上げます。幅広く充実した講義でした。福祉では貧困などの社会問題につき初めて知ることが多くとても勉強になりました。清水先生には、「理想を忘れず、現実を変えていく」という基本を教えてくださいました。今後は地域のために少しでも学んだものを生かしていきたいと存じます。 **坂野 哲司**



入学式（白金校舎アートホール）

新しい地域で、新しい友人関係が出来たことは大きいと思います。（2016年3月北海道より転入）また、福祉専科の授業は大変勉強になりました。後期高齢者なので、一年間学んだことを地域にどの程度お返しできるか模索中です。 **K.N**

皆勤の榮譽に浴することが出来ました。CC大学受講を最優先に臨んだ結果と認識しております。また、「箱根合宿」での最終講座、第3グループを代表してその討議内容を報告、発表の最中に当時の講義内容が甦り感無量でした。これからも明治学院とは、図書館利用のMGカード等によりつながりを保っていきたいと思っています。一年間本当にありがとうございました。 **大竹 雅雄**

あっという間の一年間でした。教授陣の授業とグループの皆様との幾度もの研究会合が楽しく充実していました。港区および明治学院大学の関係皆様方に感謝申し上げ、CC大学が永続するよう願っています。修了式を終えて達成感を感じています。

「あれっ、終着駅は始発駅だよ」と思い、これから先輩皆様のご指導を頂きながら地域活動を鈍行で参加させて頂きたいと思っています。

佐藤 芳男

一番の収穫は老人と言われる年齢になって、同世代の仲間が出来たことです。皆で年取れば怖くないの心境です。しかも、同じ志を持つ先輩方と共に夢を実現できる可能性が生まれた事です。「誰でも喫茶」、老いも若きもそこに行けば誰かが待っていて話が出来、そんな場所を作る。夢が実現できれば最高。でも皆で力を合わせて作る過程が楽しいのかもしれない。 **斎藤 恵子**



アリーナでの体育実習授業

1.2.3.1.1.2.3（イチ、ニイ、サン、イチ、イチ、ニイ、サン）11期生の皆様、思い出しましたか！スポーツ実習「元気で動ける身体をめざして」のリズムのとり方のひとコマですね。私は筋肉トレーニング

グをはじめ、趣味の「ゴルフスイング」に生かしています。タイミングも抜群、スコアアップ中です。先日、友人に古希祝いをしていただきましたが、お年寄りには教養と教育が必要です～今日用事があること、今日行くところがあることです（笑）皆様益々元気で頑張りましょう！

篠原 治善

この一年は本当に有意義な時を過ごさせていただきました。高齢者関係では孤独死・貧困等他人事とは思えない問題や、今増えている特別支援問題など考えさせられることが多く、学ぶ喜びを味わうことができました。さらに港区の現状・取組みが聞けたのもよかったです。また学びを通して沢山のお友達ができたことは本当にうれしい事でした。これからは高齢者である自分も含め、地域の高齢者が生き生き暮らせるような活動、そして未来を担う子ども達のために何か支援できればと考えています。

三浦 昭子



港区議会棟見学

久しぶりに学生時代に戻った気分で楽しい一年を素晴らしい仲間と過ごせた事は幸せでした。私は今まで余り経験した事のない地域や福祉関係の現況を学んで、特に生活弱者に対する問題点が人口減少社会に入っているのです、生活環境とプライバシーの確保に対する行政からの支援内容の経済性とのバランスの取り方が大変難しいと思います。ボランティア活動で少しでも役立つと嬉しいです。

大塚 堅一

お世話になった港区、明治学院大学の皆さまへお礼申し上げます。

60代半ばのリカレント・トレーニングで、視野がひろがりました。

村富 芳樹



施設見学（寿町）



巖谷國士先生授業

仕事を離れ5年間の介護生活をしました。「チャレンジコミュニティ大学」に参加することにより、家にひきこもっていた私でしたが、一年間の学びを通して外の世界に目がむくようになりました。

まだ今の段階では私に何ができるかわかりませんが「Do for others」に向かって私の残された時を共に学んだ仲間と探しつづけていきたいと思っています。

明治学院大学、港区の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。心に残る学生生活でした。ありがとうございました。

進藤 君枝



芸術鑑賞（バウハアカデミー合唱団特別演奏会）

キャリアがあり真摯な11期生との出会い、そして明治学院での学びは、私の今後の生きる方向性を示唆してくれた大切なもので港区に深謝です。

朝目覚めすぐ日暮れを迎える生活から脱却し港区に恩返しできるよう飛び立たねば… H.S.

幸運にもCC大学で様々な分野の講義を受講することができました。講義で幅広い教養に触れたことは、大変貴重な体験であり、本当に有益で充実した時間を過ごせました。特に、弱い立場の人たちが様々な問題を抱え、辛い思いをしていることを知りました。今後は、学んだことをどう生かしていくかを考え、具体的行動に移していきたいと思います。

小野 和彦



井上孝代先生講義

退職後の人生をもう一度学び直すことができればと思い、参加させていただきました。「一を聞

いて十を知る」には頭と記憶力がついてゆけず、気持ちだけは「一意専心」で臨んだ一年間でした。

「一喜一憂」しながらも、次回の講義を「一日千秋」の想いで待ち望んだものです。先生方、スタッフの皆様にご心より感謝いたします。これからは「百里の道も一足から」のように、地域の皆様と歩んでいきたいと思ひます。 中満 美紀

港区に住んで、36年。仕事、子育て、夫の闘病と別れ。幸い私は自分の仕事を持っていましたので、時を忘れるように過ごして、人生の最終章をどう生きるか考えた時にCC大学に出遭いました。

港区長をはじめ明治学院大学の教授方からライブの授業を受けて、50年タイムスリップして、学生気分で学ぶことができました。多くの知己を得て情報をいただくツールともなって、港区がより身近に、我が街と思えています。 香取 志都子



自然探索（舞岡公園）

このたび、13年振りに港区に戻り、今回の11期CC大学に於いて、一年間、社会福祉を中心に経済、文学、体育そして課外授業等、幅広い講義を頂きました。これらの貴重な体験を生かし、地域の中で何が出来るか、11期第2グループの仲間とも話し合っているところです。小さな第1歩としては高輪地区の亀塚公園ジオトープに於ける、“カントウタンポポを守る会”でのアドプト活動を始めました。CC大学の関係者の皆様には、大変お世話になりました。ここに深く感謝申し上げます。

鈴木 興雄

濃い一年でした。先生方の一言一句も聞き漏らすまいと夢中でした。今まで深く気に止めることなく過ごして来た福祉の問題などに目を向けるようになりまし、港区の行政や歴史にも興味が湧いて来まし。CC大学で出会えた友人たちと話し合いを重ねて、私でもできる何かを見つけ、これからの活動に生かしていけたらと願っています。

村上 萌美

多彩な講義の中でとくに注目したのは、少しだけ触れられた「地域通貨」でした。「皆さんは恵まれている」との言葉を何度か耳にしましたが、この境遇はいつ変わるかわからないと私は思っています。恵まれている人も生憎そうでない人も、互いにできることをして、互いに支え合うことに役立つと思え、引き続き注目したいと思いました。有意義な一年に感謝しています。

H.S.

70才でリタイヤし、何か出来る事があるのでは、とCC大学に入学しました。久しぶりの授業はワクワクの連続で、少子化・高齢化については港区の行事と共に深く知る事が出来ました。美しい音色に、美術品鑑賞に、時の経つのを忘れた事もありました。今後は子供たちの成長に係わるお手伝いが出来ればと思っております。先生方、級友、学院の方々有難うございました。

岩田 孝子



河合克義先生講義



自然探索（舞岡公園）

緊張しながら入学し通い始めた時と、修了させていただいた現在を比べますと、まるで何も書いていない白紙と漢字や外来語がびっしりと詰まった紙面ほどの違いを感じ、私自身に何か重りが入ったような気が致します。それは研さんを積んだ諸先生方の最新の講義を聴くことができ、経験豊富な同期生の皆さんに出会えたからだと思えます。CC大学で学べた事は、私の何物にも変え難い財産となりました。修了後は授業の復習をやり始めました。

衛藤 素子

学生時代に戻ったようで、兎に角楽しい一年間でした。明学の校門をくぐり若い学生達にまじり校舎に向かった時のワクワク感。美術、音楽、文学等一般教養。河合先生率いる社会学部の熱意ある講義と熱心な先生方。蓄積された運動不足・体力低下を痛感させられたスポーツの講義。地域活動は何ができるか思案中ですがCC大学でできた仲間を大切に、まずは自分の体力作りからスタートしています。

T.A.

“社会福祉”について具体的に意識した事が無く、入学当初は授業についていけるか心配した。カリキュラムが進むにつれ、周りの高い出席率にも後押しされ、印刷の不鮮明な資料で老眼を嘆いたり、睡魔との戦いの授業もあったが、会社勤務を続けつつ一年間参加でき、ホッとした。クラスメートを始め新しい出会いがあり、とても感謝している。先ずはいろいろ活動中のプログラムに参加して、今後の方向を模索したい。

H.S.

あっという間の一年でした。そしてこれからの人生を生きて行く為の沢山の知識を学ばせて頂き、またこの歳にして新しい友達を得る事も出来た本当に意義の有る素敵な一年でした。この様な機会を与えて下さった全ての方々に感謝の気持ちを持って、私なりに少しでも恩返しが出来ればと思っております。有難う御座いました。

柳川 薫子

毎回の授業がとても楽しみで、ワクワクしながら参加させて頂きました。あっという間の一年でした。授業で学んだことを少しでもお役に立てたいと思っています。人の為に明かりを灯せば、自分の前も明るくなると伺ったことがあります。地域社会で生かして参ります。

K.G.

①明治学院大学、港区およびお世話になった方々に感謝。②授業を通じて、“福祉”というブルーで重たい難題ではなく、“身近で身の丈に合った事”で役に立てれば良いと悟った。③佳き仲間と一緒に充実した時間であった。

Kawa



箱根研修会（グループ別討議）

CC大学に通った日々、様々な人生を歩んできた人々との新たな出会い、そして同じ教室で学び学ぶ場を提供して下さった港区・明治学院大学の関係者に深く感謝しております。

修了した今、微力ながらシルバー人材及び介護予防総合センターのボランティアのお手伝いをしながら新たなチャレンジを考えております。

吉井 紀子

社会福祉、寿町の見学、施設の実態、孤独死等、現実を知る機会を得た事は、今まで、深く考えてこなかった私にとって貴重な経験でした。

還暦以降、終活を頭に描いていた私は、年代を重ねて魅力的で若々しく元気なCCメンバーと会えて勇気を頂きました。今は、保育園や幼稚園の送迎、見守り保育といった「ちょこっと保育」をマンション内で立ち上げたいと思っています。

鈴木 和子



箱根研修会（グループ別討議）

CC大学で色々なことを学び、気づかせて頂きました。おかげさまで充実した一年間を送ることが出来ました。CC大学最高です！！素晴らしいCC大学の益々のご発展と関係者の皆様の益々のご活躍を心より祈念致しております。一年間大変お世話になりました。本当にありがとうございました。深謝。

T.S.

横浜生まれで幼少期を近くで過ごした私には、ドヤ街の寿町は、近くて遠い街で、実際に足を踏み入れたのは初めてだ。子供のころに抱いた怖い街のイメージは、一変して「高齢者の街」、「生活保護者の街」に変わっていたが「健康で文化的な最低限度の生活」とは、程遠いもの。

まず、見て、感じて、行動へ！これがCC大学の教えかも。

伊藤 洸

チャレンジコミュニティ大学での一年間は、退職後の生活に一定のリズムをつくれたこと、社会福祉分野の視野が広がられたこと、また、地域で

の知己ができたこと等、たいへん有難い機会でした。4月から白金台いきいきプラザで男の料理教室のメンバーによる「ランチサービス」に参加し、地域活動を始めました。 **井本 博幸**

CC大学での一年間の講義は、これまで仕事一筋でやって来た私にとって、大変に新鮮で刺激的で毎回ワクワクする講義内容で、とても貴重な経験となりました。又、多くの新しい仲間が出来た事も素晴らしい財産になりました。これからはCCクラブの一員として、微力ながらも地域活動に参加して行きたいと思っています。 **K.M.**

CC大学に週2日の一年間でしたが、半世紀ぶりに学生気分を体験できました。小生は理系の大学でしたので、経済・文学・法律・心理・社会福祉等の講義がとても新鮮な気持ちで受講できました。

また、第1グループの20人の仲間と毎月のように開催した「飲みにケーション」で一層絆ができたように思います。卒業後も第1グループでは毎月1回会合を開催して行く予定です。

今後、各自は各地域のCCクラブに所属しボランティア活動にチャレンジするのが楽しみです。この一年間感動とチャレンジ精神を与えていただいた事に感謝します。 **杉原 俊郎**

私にとってのCC大学は、たまたま行ったいきいきプラザで存在を知り、軽い気持ちで受け、人生経験の豊富な方々と出会い、多岐にわたる授業内容と共にこれまで知らなかった世界にも目を向けさせられ、その中で「私には何ができるのだろうか?」と考えるきっかけを与えてくれた所です。そのきっかけは、私の日々の生活の中で未知の一石となり小さな波紋になっています。その波紋をどう広げて行くか、それがこれからの課題です。

三島 千鶴子

一年間大変お世話になりました。有難うございました。経験豊富な教授陣による内容の濃い、興味深い講義ばかりで沢山の勉強をさせていただきました。法律から経済、美術、音楽と内容が幅広く港区の区政や活動内容など身近な事で知らない事が多く今後の課題など改めて勉強になりました。また、体育実技では、理論的に体の構造や健康寿命を延ばす為の体力作りを学び効果的でした。将来ボランティアの活動をする上でも健康が第一の中で、この体力作りを継続し関係者のお役に立つことができたら幸いです。

今後のCC大学のますますのご発展を心から祈念いたします。

葛西 健



箱根宿泊研修会

■運営委員会報告

2018年度の代表、副代表、運営委員会、各部会のメンバーは以下の通りです。

2018年度 CCクラブ運営委員会・部会メンバー

	代表	齋藤 正精 ⑥	副代表	及川 廣子 ⑥	丸山 保夫 ⑦
運営委員会	運営委員		運営委員		運営委員
1 期	② 梶木 美智子	5 期	① 呉 東富	9 期	① 高橋 邦夫
	③ 古橋 義弘		③ 伊藤 昌一		② 小島 寛
2 期	② 野口 美津子	6 期	① 村上 英一郎	10 期	③ 西田 宏子
					① 福岡 哲郎
3 期	① 池谷 敏雄	7 期	② 小倉 剛	11 期	② 瀬能 正実
4 期	① 西多 和子	8 期	① 高橋 和子		③ 松嶋 恵美子
			② 石黒 富志子		① 杉原 俊郎
			③ 松木 勇		② 鈴木 興雄
					③ 廣田 洋子

	部会長	部会員			
企画部会	野村 知義⑧	野口 美津子②	丸山 保夫⑦	阿部 令子⑩	橋本 順子⑪
	山口 明子⑦(副)	藤原 琴子④	西田 宏子⑨	梅沢 隆⑪	平岩 力④(協)
	可知 隆志⑧(副)				
会報部会	瀬能 正実⑩	古橋 義弘①	榎本 和夫⑦	今井 美智⑩	鈴木 興雄⑪
	太田 則義⑦(副)	忍足 恵一⑥	山田 紀子⑧	佐藤 芳男⑪	中満 美紀⑪
HP部会	石賀 幹春⑨	齋藤 正精⑥	福岡 哲郎⑩	高田 英夫⑧(協)	
	池畑 博実⑩(副)	伊藤 早苗⑧	岡部 正実⑩		
地域連携部会	吉田 由紀子②	呉 東富⑤	今泉 昌代⑩	森下 和彦⑪	
		及川 廣子⑥	岩田 孝子⑪	進藤 君枝⑪	
		小田切 恵子⑦	三浦 紀久子⑪	川上 利春⑥(協)	
総務部会	石川 啓子⑧	丸山 幸秀⑩	國久 昇⑪		
	秋元 宏⑧(副)	宇都宮 和美⑪	岩佐 徳太郎⑨(協)		

地域CCクラブ			
芝CCクラブ	石黒 富志子⑧	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	齋藤 恵子⑪
高輪地区CCクラブ	太田 則義 ⑦	3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地域)	川村 潔⑨

- ・部会長・副部会長の(副)は副部会長、部会員の(協)は協力部員。
- ・運営委員会の●数字はグループ、それ以外の欄の○数字は期です。

■活動紹介

地域連携部会では「2018年度活動実態調査」を行います。このCC通信38号に調査票が同梱されており、提出要領については、調査票の1ページに記載されています。各期や各グループの集まりを利用し、多くの方の提出をお願いいたします。多数の方の提出により今後のCCクラブの活動にも生かされる調査にしたいと思います。

編集後記

2018年度第1号のCC通信38号は新年度の挨拶、方針そして修了生の感想文の内容で発行しました。11期新会員皆様の今後の活動を期待しております。今年度のCC通信は文字を大きくすることにしました。また、今年のCC通信の発行は3回となりますが、誌面には限界がありますのでホームページとの連携も含め、皆様の活動紹介をしたいと思います。

CC通信について皆様のご意見をお寄せください。 (7期 太田則義)



チャレンジコミュニティ通信 vol.38 2018年7月1日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課
(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel.03-5421-1555 Fax.03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

http://www.minato-ccc.jp

表紙写真協力/平尾恭一様(9期)

会報部会
部会長 瀬能 正実(10期)
副部会長 太田 則義(7期)
部員 古橋 義弘(1期)
部員 忍足 恵一(6期)
部員 榎本 和夫(7期)
部員 山田 紀子(8期)
部員 今井 美智(10期)
部員 佐藤 芳男(11期)
部員 鈴木 興雄(11期)
部員 中満 美紀(11期)